

EU Indicators

欧州経済指標コメント：5月ユーロ圏消費者物価(速報)

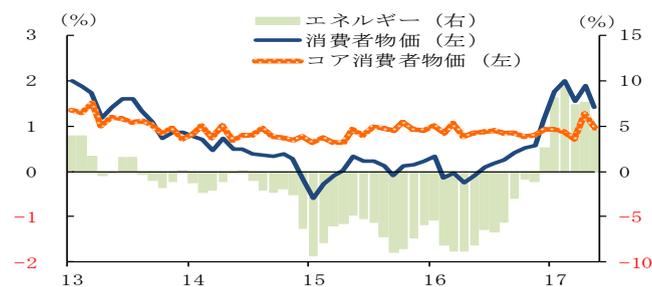
発表日：2017年5月31日(水)

～コア物価はトレンド復帰、どうにか底入れ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

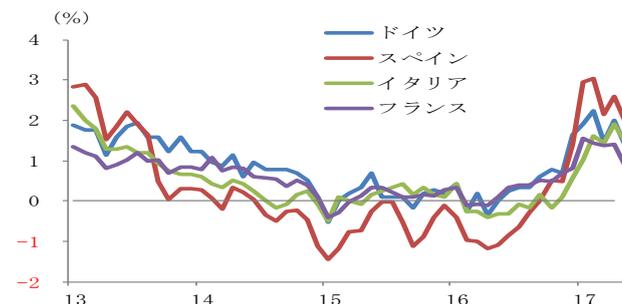
- ユーロ圏の消費者物価の速報値は5月に前年比+1.4%と前月の同+1.9%から大きく縮小した。イースター休暇時期のズレ（前年が3月で今年が4月）による前月の旅行関連価格の押し上げが剥落したことに加えて、原油価格の上昇一服でエネルギー価格の押し上げ寄与が縮小したことが影響。
- 速報段階で入手可能な内訳は、コア物価（前月：同+1.2%→今月：同+0.9%）の上昇率が縮小し、暦要因による3月の下振れ・4月の上振れが起きる以前のトレンド水準に復帰。食料・アルコール飲料・たばこ（同+1.6%→同+1.5%）は前月並み。エネルギー（同+7.6%→同+4.6%）の前年比上昇率は今年2月にピークを打ち、原油相場と歩調を合わせる形で今月は上昇率が大きく縮小した。
- コア物価は2015初頭の同+0.6%をボトムに極めて緩やかに持ち直しているが、なお1%未満での低調な推移が続いている。景気の順調な回復や失業率の低下が続き、需給改善や表面物価の上昇に伴うコア物価への波及も期待されるが、明確な波及が確認される以前に、エネルギー価格の押し上げ寄与が縮小に転じる形となった。ただ、四捨五入前では昨年12月～今年2月平均の同+0.90%から5月の同+0.94%へ僅かに加速。足取りは鈍いものの、底入れの兆しは確認できる。
- コア物価の低調推移に加えて、イタリアの政局不安の再燃もあり、ECBは緩和縮小に向けて極めて慎重なコミュニケーションを続けることが予想される。6月8日のECB理事会では、景気判断を現在の「下振れ」から「中立」に戻す一方で、一部文言の修正を除けば、将来の利上げ期待や緩和縮小期待を高めるフォワード・ガイダンスの全面的な見直しは見送られる可能性がある。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国の消費者物価（統一基準、前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2016			2017		2017									
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
消費者物価（前期比）	0.4	0.3	0.4	0.6	0.1	0.2	0.0	0.4	0.3	0.2	-0.1	0.2	-		
（前年比）	-0.1	0.3	0.7	1.8	0.4	0.5	0.6	1.1	1.8	2.0	1.5	1.9	1.4		
コア消費者物価（前年比）	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.9	0.7	1.2	0.9		
食料/アルコール/たばこ（前年比）	0.9	1.1	0.8	0.0	0.7	0.4	0.7	1.2	1.8	2.5	1.8	1.5	1.6		
食料（前年比）	0.6	0.9	0.5	0.0	0.4	0.0	0.4	1.1	1.8	2.7	1.7	1.3	-		
アルコール（前年比）	0.9	0.9	0.9	0.0	1.0	1.1	0.9	0.7	0.5	0.6	0.9	0.3	-		
たばこ（前年比）	2.5	2.3	2.3	0.0	2.3	2.3	2.3	2.3	2.5	2.7	2.9	3.5	-		
エネルギー（前年比）	-7.7	-5.1	0.2	8.2	-3.0	-0.9	-1.1	2.6	8.1	9.3	7.4	7.6	4.6		

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。